

令和4年5月6日

() 御中

日本放射化学会 会長
篠原 厚
日本放射化学会第66回討論会(2022)実行委員会
高橋嘉夫(委員長・東京大学大学院理学系研究科・
アイソトープ総合センター長)

「日本放射化学会第66回討論会(2022)」共催のお願い

拝啓

時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

本放射化学会は、創設20周年を迎えた一昨年に新法人となり、関連分野を代表する学会として新たなスタートを切っております。既に学会組織の整備強化、将来構想に基づくこの分野の活性化、学会主導プロジェクトの推進などを進め、活力ある教育研究の交流の場の提供と社会貢献に尽力しております。そのためには会員、特に若手会員の増強、関連学協会との連携の強化が重要であります。

翻って放射化学・放射線関連分野では、ニホニウム発見などの新元素探索、がん治療への核医学の貢献の急進展、世界的エネルギー資源不足による原子力依存の継続や原発事故・廃炉・放射性廃棄物地層処分などの課題に関わる放射性核種の動態の解明、新しい分析法開発による「はやぶさ2」プロジェクトなどへの貢献など、人類の夢と安全安心に関わる様々な研究分野で、目を見張る進展がみられています。

このような時期に、「日本放射化学会第66回討論会2022」が、令和4年9月15日(木)～17日(土)に東京大学理学部1号館(小柴ホールなど)にて開催される予定です。今回の討論会では、上記のような背景から、本会策定の放射化学ロードマップに基づく放射化学の将来発展の展望、次世代育成に向けた特別セッション、関連学協会との連携セッション、若手の会の支援なども検討致しております。

なお本会では、2022年9月に国際会議APSORC2022(環太平洋放射化学会議)の開催を予定しておりましたが、COVID-19のためアジア地域からの参加者が見込めないことなどから、APSORCの開催を2025年に延期し、本年は急遽国内学会である放射化学討論会を東京大学本郷キャンパスで、対面方式にて開催することと致しました。なお、参加者増を期して、聴講のみの場合には、オンラインも可能とする予定です。

つきましては、貴会に本討論会への共催をお願いいたしたく、お手数ながらご検討賜りますようお願い申し上げます。本討論会の開催に関する費用につきまして、分担金などのご負担はおかけ致しません。また、貴会会員は当会会員と同等の条件で参加できます。ご賛同頂ける場合には、別紙回答用紙をFAX又はメールにて6月15日までにご回答頂けましたら幸いです。なお、貴会のご事情により、協賛、後援でご協力頂ける場合は、その旨お知らせ下さい。

本討論会は、1957年に第1回を東大主管(学士会館)で開始して以来、66回を迎える伝統ある討論会でもあります。是非東京の地からこの分野の将来における更なる振興を目指すために、貴会のご協力を賜ることができましたら大変幸いに存じます。ご多用中恐縮ですが、何卒よろしくごお願い申し上げます。

敬具

回答用紙

E-mail: info-sorc66@ric.u-tokyo.ac.jp

FAX: 03-5841-8791

貴会名 : _____

日本放射化学会第 66 回討論会 (2022) について共催を承諾します。
(共催以外の場合) () を承諾します。

貴会ご連絡先

お名前 _____

ご所属 _____

E-mail : _____

Tel : _____

日本放射化学会第 66 回討論会 (2022) 実行委員会事務局

連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院理学系研究科

高橋 嘉夫

Tel: 03-5841-8076 Fax: 03-5841-8791

E-mail: info-sorc66@ric.u-tokyo.ac.jp

年会ホームページ <https://confit.atlas.jp/sorc2022> (6 月下旬公開予定)

(暫定版 : <http://www.radiochem.org/event/forum.html>)

*協賛用ファイルダウンロード可能)

放射化学会ホームページ <http://www.radiochem.org/index-j.html>